

# 離島40航路で値上げ

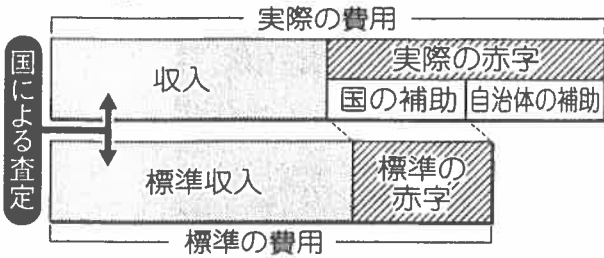
## 04年春以降 燃料高騰や過疎化影響

採算が見込めず国の補助対象となつている離島航路の運賃値上げが、二〇〇四年四月から今年九月末までに福岡、佐賀、長崎、大分、鹿児島など十六都県の四十航路で相次いでいることが三日、国土交通省の集計で分かった。燃料費の上昇や過疎化に伴う乗客減を受

け、住民らが負担増を強いられた形。離島での生活を維持する重要な交通手段で、今

後、同様の経営環境にある他の離島航路にも値上げが拡大しかねないだけに、補助制度の充実などが課題になりそうだ。離島航路は〇七年度で三百十三あるが、中でも代替交通手段がないなど住民の生活に不可欠な百二十二航路が、離島航路整備法に基づき「補助対象航路のうち運賃が上がったのは〇四年(四十二年末)に八、〇五年で九あり、〇六年は長崎など九県の十七へ増加。〇七年も九月までに愛媛、沖縄など三県の六

### 離島航路補助制度の仕組み



けた。燃料費の上昇や過疎化に伴う乗客減を受



表彰の知らせにも浮き立つところはない。「社会の役に立っているかは分からない。自分がしていることは自己満足かも」。長男敬

さん(当時三三)が米国留学中に強盗犯に銃撃され、亡くなって十三年。同じ境遇の遺族らとともに、銃犯罪根絶の啓発活動に走り回ってきた。

しかし、銃による凶悪事件は後を絶たない。若者は海外で興味半分に銃を試し撃ちし、書店にはマニア向

### 社会貢献者表彰を受けることが決まった「ストップ・ガン・キャラバン隊」代表

すなだ 砂田 向老さん



「雑誌が堂々と並ぶ。「銃 無関心」という。はあこがれる物じゃない。むなしさを抑えきれず、人が破壊されるとどうなるか、ゲームではない現実を知ってほしいのだが」銃規制に反対する人たちのプラカードを持って立つからキャラバン隊への無言の電話やネット上での心無い中傷を数多く受けてきた。「一番怖いのは、メディアで、「天国の息子からの声も含めた国全体にはびこる

「殺されるぞ」と心配さながら、米国で銃メーカーを相手取り、製造責任を問う訴訟を起こし、一九九九年に勝訴。日本でも警察と連携し、昨年、法律でエアガン規制を実現させた。警察、政治家にも「なぜ『国民を守る』と力強く宣

言できないのか」と注文する。目標は、銃刀法と銃捜査手法の強化で「平和とはつくり出すもの」が信念。表彰式は十三日、東京で。得度試験を受けるため、浄土真宗本願寺派の学校で学んでいる。敬さんへの思いを尋ねると「何もない…。会えんのやから」と絞り出した。六十一歳。

(社会部・小野浩志)